

隠岐諸島ジオパーク地質と成り立ち

位置

日本海にある隠岐諸島は、島根半島の約 60 キロメートル北に位置する。かつてはアジア大陸と続いていたが、海拔の変化により日本本土とくっついたり離れたりを繰り返した。島を作り出した複雑な地質学的経緯も相まって生態系は独自のものとなり、2015年に隠岐諸島はユネスコ世界ジオパークに指定された。

成り立ち

隠岐諸島の成り立ちは、4段階に分けられる。隠岐諸島が大きな大陸の一部であった大陸時代、日本を形成することになる土地がプレート移動で塊としてゆっくりと引き離されて日本海が形成された時代、隠岐を含む諸島が火山活動によってゆっくりと築き上げられた火山島時代、本土から隠岐諸島が分離した海拔上昇の時代である。

数千万年もの間、隠岐諸島と日本の本土はユーラシア超大陸の一部であった。最終的に日本と隠岐諸島になる土地の塊が構造運動によりゆっくりと引っ張られ、この大陸時代は約 2600 万年前に終わった。この運動が続くにつれ、土地は徐々に引き伸ばされ、その部分が沈んだ。沈んだ際に発生したくぼみにいくつかの湖ができた。1600 万年以上の間に隔たりは広がり、海水が流れ込み、日本海ができた。

日本海が形成された後も、火山活動時代が続いた。約 600 万年前、2つの大規模な成層火山が繰り返し噴火をはじめ、古い大陸岩（片麻岩）の上に溶岩が積もり、島前と島後の島々が生まれた。島前カルデラは約 500 万年前に形成され、この時火山の頂上は陥没し海水で満たされた。

島の火山活動が最後に終わったのは約 40 万年前だ。それ以来、気候変動と海拔の変化で隠岐諸島と島根半島の間をつなぐ地面は、繰り返し地上に現れては海水に沈み、島と本土のつながりは断続的なものとなった。